

掲示板のことは

人生の

豊かさとは

何を成したか

だと思ったら

どう生きたか

でした

小梅太夫 「特茶」CM

2025. 12

この言葉は、SNS を眺めていたら突然飛び込んできたコマーシャルの言葉でした。ちょっとご紹介します。ちなみに、小梅太夫さんは芸人さんです。

小梅太夫は長い階段をゆっくりと踏み上がっています。その階段に並行したエスカレーターに乗っている背広姿の中年の男が、小梅太夫を追い越しながらこう言います。「なぜ、そんなことをしている。こっちはいいぞ。実に合理的だ。そんなふうに汗水を垂らさんでも、勝手に連れて行ってくれる」「そのエスカレーターはどこへ向かっているのですか」「それは、誰しもが皆等しく行くところさ」「じゃあ行き急ぐ必要はないね」「でも、疲れるだろ」「ああ、疲れる」「ではなぜ?」「実感が欲しい。この足で人生を全うしたという実感が欲しい」「解せないな、どうせ向かうところは同じだというのに」、その直後に、小梅太夫が持ちネタの「ちゃんちゃかちゃんちゃん」のリズムに乗せて表記の言葉を言います。

なるほどなあ、と思いました。人生を歩むのは疲れます。苦しい時もありますし、立ち止まってしまいたくなる時だってあります。楽して生きて行きたい、と思うことだってあるのではないのでしょうか。でも、確かに、実感は欲しいです。

エスカレーターのように、勝手に連れて行ってくれる道は楽かもしれませんが、ずーっと楽なままで「生きている」という実感はあるのでしょうか。私はこう思いました。「豊かさ」とは「実感」を通して得られるものなのではないかと。

だから、成果よりも過程が大事なのですね。たとえ成果が得られなかったとしても、一步一步確かに生きてきたという実感が、豊かさを感じさせるのでしょうか。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹